審査員特別賞・地域文化SDGs賞

栃木県立宇都宮白楊高等学校

農業経営科 GAPチーム

環境に配慮した持続可能な農業

販売実習

トマト栽培にお墨付き

宇都宮白楊がJGAP

JGAPの認証書を持ち笑顔を見せる宇都宮白楊高の生徒たち

農業系高、県内で初取得

【宇都宮】宇都宮白楊高は10日、生徒が実習で使用している同校農場がトマト栽培で日本版農業生産工程管理基準「JGAP（ジェイギャップ）」を取得したと発表した。認証日は昨年12月26日で、有効期間は2年間。同校によると、安全性へのお墨付きとかいえる認証の取

活動期間 2017年8月～（150回ほど活動）

構成人数 高校生123名・大人13名

SDGs テーマ

推薦メッセージ

本校では関東地区の農業関係高校では一番早く、食の安全性に取り組むため、栽培履歴を確認しながら、ＪＧＡＰの認証に取組みました。ＪＧＡＰの認証に向けて、栽培工程を見直すとＳＤＧｓと深い関係があることに気づきました。地域の住民の方や近隣の小・中学校に出向き、ＧＡＰについて説明をしながら、ＳＤＧｓについて関心を高めています。

栃木県立宇都宮白楊高等学校　主幹教諭　阿久津 晃一

活動内容

２０２０年に東京においてオリンピック・パラリンピックが開催されることが決まり、選手村で提供する食材の調達基準としてＧＡＰの認証取得が条件となることが発表された。このことを受け、本校ではＧＡＰ教育の取り組みや意識が高まった。学科の目標である作物の栽培や家畜の飼育に関する専門的な知識や技術の取得のため、科内の会議や担当者との打ち合わせなどを通して、日頃の生徒実習を見直してみることにした。宇都宮市は、県内第1位を誇るトマトの産地となっており、トマト農家の後継者も多いことから、まず始めにトマトにおいてＧＡＰを開始し、認証を目指して取り組んだ。そして、２０１７年に関東の農業関係高校では初めて、トマトでJＧＡＰの認証を得ることができた。その後、ブドウ・ナシ・米・ネギに品目を増やし、現在では５品目にまで広がった。できた農産物は小・中学校の学校給食や地域のイベント、学校祭などで販売をしている。この取組みは野菜・果樹・作物文分会の生徒が中心となっている。また、できた農産物は酒やうどんの中に練り込み、乾麺として商品化されている。ＧＡＰを学ぶに連れ、ＳＤＧｓと深くかかわっていることを知り、地域のイベント会場で、農産物の販売実習を通して、ＧＡＰとＳＤＧｓの関係について紹介をしている。本校では、環境に配慮した循環型農業を取り入れ、持続可能な農業を授業で行っている。農業を通して、ＳＤＧｓのさらなる発展に寄与できると確信をしている。

01.活動をはじめたきっかけ

GAPの新聞記事を調べる授業から生徒の主体的な活動へ

本校では平成２８年度より新聞を活用したＮＩＥの実践校として取り組みをしている。写真は、新聞社の記者さんから記事の書き方に関する研修会の様子である。こうした新聞からの情報を専門授業に活用することは学習の動機づけや教科書に記載されていない最新の情報として、生徒に専門についての知識を深め、進路に結び付くなどの効果が期待でき効果がある。そこで、昨年度より注目されているＧＡＰについて、いつくかの新聞記事を生徒に調べさせ、興味や理解を深める生徒の主体的な活動を開始した。グローバル化が進むことで農業に従事する上でも正しい知識と情報を持つ必要がある。そのため、他校に先駆けてＪＧＡＰの認証に取り組み、ＪＧＡＰの認証を通して、地域の人たちに食の安全性や在り方、今後の農業の歩むべき道を伝える活動を行っている。

02.活動から学んだ・感じたこと

仲間と対話し、目標をもって挑戦することの大切さ

持続可能な農業ＧＡＰとは生産工程を記録、点検、確認、評価をして、環境に配慮しながら農業を行うことが重要である。その工程サイクルは、作業工程を重ねることで、安全面や衛生、作業の危険防止などを未然に防ぎ、適正に行動できることが可能となるシステムである。このサイクルを農業教育に生かすことはとても効果があると思う。生徒たちは仲間と話合い、対話をすることで課題や改善策を見つけ、目標を持って挑戦することの大切さを考えさえることができると思う。そしてＳＤＧｓと関係させることでさらに理解が深まると思う。

03.継続するためのこれからの工夫

活動体験をSDGsと関連させて より理解を深めていく

コロナ禍前までは地元の小学生といっしょに、ハウスの前の広場で掲示物を利用しながら、ＧＡＰについて説明し、トマト収穫し、次の日に給食にスープとして出された。生徒たちはＧＡＰに取り組んだことで、市内のマーケットなどでのトマトの販売会やＧＡＰの実践報告会、生産農家やセミナー等で生徒たちの目線に立ち、ＪＧＡＰ認証の取り組みについて発表ができた。この活動体験をＳＤＧｓとさらに関連させることで、理解を深めていきたい。さらに、論文コンクールや意見発表作文などに提出し、入賞を目指す。これからもＧＡＰを通して、安全・安心な農産物を提供できる持続的可能な農業を普及・推進していくため、学校全体で盛り上げていきたいと思う。

小学生との交流

活動の略歴

平成２９年	４月	ＧＡＰに関する新聞記事の学習
	５月	ＧＡＰに関する新聞記事の切り抜き発表
	６月	ＧＡＰ認証にむけて課題の検討
	７月	新聞社からの出前授業
	８月	トマト栽培における土壌分析の講和
	９月	平成２９年度トマト栽培の開始
	１１月	学校祭でのＧＡＰに関する展示報告
	１２月	認証にむけて農場整備
平成３０年	１２月	ブドウ・なしでＪＧＡＰ認証
平成３１年	１月	新聞やホームページによるトマト栽培の紹介
	２月	トマトの収穫開始、給食に提供が決まる
	３月	河内地区農業教育連絡協議会での発表
		オリスクマーケットでのトマト販売実習及び事例紹介
	４月	新野菜分会によるＪＧＡＰの継続学習
		ＪＧＡＰ認証トマトの小・中学校に給食食材の提供（4月～6月まで16回）
	５月	新1年生に向けてのＧＡＰに関する取り組みの紹介
		小・中学生に向けた出前授業（ＧＡＰの紹介や収穫体験）

活動の略歴

平成３１年	６月	農業クラブにおいてプロジェクト発表（区分：食料）に参加 （発表題：トマトにおけるＪＧＡＰ認証にむけての取り組みについて）
	１１月	学校祭でのＧＡＰの取り組み展示
	１２月	米・ネギでのＧＡＰ認証
令和２年～ 令和４年		5品目　更新　コロナ禍で活動中止 ＪＧＡＰ認証の酒米を活用した清酒「白楊舞」販売開始
令和５年	５月	オリスクマーケトでトマトの販売実習開始
	９月	ＪＧＡＰ更新審査
	１０月	宇大・コラボレーションフェア　なしのポスター発表 本校のＪＧＡＰ認証に農家が聞き取り調査に来る トマトうどんの商品化が決定